



昭和 42年 12月 25日 第三種郵便物認可 平成 25年 6月 25日 発行 (偶数月 25日 発行) 通巻 455号 ISSN1882-9643

J-SAILING

JAPAN SAILING FEDERATION



NO.101

www.jsaf.or.jp



今日も
元気に
チップスター



チップスター
コーンチップ
で当たる!

チェブラーシカ
おやつタイムグッズ

プレゼント

© 2010 CMP/CP

抽選で総計 (毎回1,250名様)

5,000名様に当たります!

Aコース
計2,500名様
(毎月625名様)

オリジナル
ティータイムセット



Bコース
計2,500名様
(毎月625名様)

オリジナル
サマーグラスセット



最終応募締切: 2013年7月31日(当日消印有効)

※賞品のデザイン、仕様等は変更になる場合がございます。

詳しくはパッケージ・ホームページをご覧ください。 <http://www.yamazaki-nabisco.co.jp/>

ヤマザキナビスコ

JSAFからのメッセージ

今年度の活動

今年度のJSAFの活動計画の一部を紹介します。

■ 昨年度から公益財団法人に移行し、
いっそうの社会的な責任を感じています。

倫理委員会やコンプライアンス委員会を新設し、
スポーツ界の諸問題に対応します。

■ ユース制式艇種は数年間の検討を経て
420級とレーザー級を選定し、

2015年和歌山で開催される国民体育大会
およびインターハイから採用となりました。

■ 大型艇では先日、神戸・横浜レースを終え、
9月にはニューヨークヨットクラブの招待杯が開催されます。

国際レースでは、ブライインド世界選手権を6月に終え、
夏にはOP級のアジア選手権が開催されます。

■ また、オリンピック関係では担当委員会を
オリピック強化委員会と呼称を変え、

東・西・中日本と3水域に担当コーチを任命、
リオデジャネイロオリンピックに向けた強化に取り組みます。

■ 「2020オリンピック・パラリンピックを日本で！」
東京招致の実現をめざし活動します。

シーズン真っ盛り。

安全を第一に、風や波や潮を相手にセーリングスポーツの
醍醐味を楽しみましょう。



■ ジュニア・ユースにも届きます。

本号からJ-SAILINGはジュニア・ユースメンバーが所属するおよそ200の団体
にお届けしています。各団体のご担当者の方々には、ジュニア・ユースセーラー
のためにJ-SAILINGを活用されることをお勧めいたします。

■ PDFでも読めます。

JSAF ホームページの<http://www.jsaf.or.jp/j-sailing/> にアクセスしてくださ
い。J-SAILINGのpdfバージョンが掲載されています。過去の記事を再読したり、
本誌が手元にない時にもPCがあれば読むことができます。ご利用ください。

■ メールアドレスを併記してください。

デジタル化が進み、電子メールを使った連絡方法が一般的になっています。
JSAFもメンバー各位に様々な情報をお届けする際、メールを利用することが多
くなっています。そこで、各団体の登録業務ご担当の方々にお願いします。メンバー
の新規登録や更新登録の際には、必ずメールアドレスを併記していただけるよう
お願いいたします。

JSAFのメンバーになれば

- ◎メンバーズカードが発行され、公式競技参加の資格が与えられます。
- ◎会費の一部が傷害保険の保険料に充当され、セーリングの事故による死亡、後遺障害に適用されます。
- ◎JSAFの会報誌「J-SAILING」が送付されます。
- ◎各種講習会などに参加でき、資格を取得する際の条件に適用されます。
- ◎「J-SAILING」をはじめ、所属する加盟団体からもセーリングに関する各種行事やレース日程などの情報が提供されます。

加入、更新手続きの詳細は各加盟団体にお問い合わせください。

<http://www.jsaf.or.jp/dantai/>



さらなる 飛躍を 実感!

2013 IFDSブラインドセーリング世界選手権

5月24日～6月1日 シーボニアマリーナ

photo by Junichi Hirai



始まりは1997年の ウエイマズ遠征

1996年、日本視覚障害者セーリング協会（JBSA）設立時、この日が来ることを思い浮かべていたでしょうか。視覚障害者と晴眼者がセーリングクルーザーに同乗することが精一杯でした。世界のレベルもわからないまま97年イギリス・ウエイマズの第3回世界選手権に参加しました。メンバーは竹脇、八木、日

6カ国19チームの参加を得て開催された「2013 IFDSブラインドセーリング世界選手権」。

B1、B2クラスは英国、B3クラスはニュージーランドが優勝。
3クラスに各2チームが参戦した日本チームは、B1(参加7艇)で4位、5位、B2(同5)で3位、4位、B3(同7)で3位、4位を獲得。国別対抗でも3位に入賞した。取材協力/大会広報委員会

* B1クラス(全盲)、B2クラス(光覚手動)、B3クラス(弱視)

最高の舞台が整う

本格的に準備にかかろうとした時、大会はクラブ主催でなければならないことがわかりました。JBSAは協会であってクラブではない、世界選手権の主催団体になり得ないということです。そこでJBSA神奈川支部の活動拠点であるリビエラリゾートとオーナーズクラブであるシーボニアヨットクラブに相談したところ、快諾をいただき、ようやく日本大会開催の見通しがついたのです。

瞬く間に時は過ぎ、日本代表選考レースとして12年の全日本大会をシーボニアマリーナで実施しました。日本代表3

高、竹脇猷で、初出場ながら銅メダルを獲得しました。以降、米マイアミ、伊ガルダ湖、米ニューポート、NZロトルアと5大会連続で参加しました。
世界選手権大会期間中には、参加国のブラインドセーリング協会の代表による会議が持たれます。主要議題のひとつに、次回の開催地の検討、決定があり、99年のマイアミ大会では、日本開催を推す声が大勢を占めました。しかし、竹脇会長(当時)をはじめわれわれは「日本での開催はとても無理です」という意志を伝えました。その時以来、日本開催が議題に上るようになり、2009年ロトルア大会で日本開催の機も熟しただろうという声が再燃したのです。こちらも腹をくくる時が来たと覚悟し、日本開催を受けました。JBSA内でも日本開催は無理という意見も多く出ました。でも日本開催を受けたのです。
ロトルア大会最終日にブラインドセーリングのドン・メイソン会長のたどたどしい日本語での挨拶「ニセン、ジユウサン、ネン、ミンナデ、ニホンニ、イコウウ」で、いよいよ開催への第一歩を踏み出すことになったのです。マイアミ大会から10年がたっていました。

世界選手権開催顛末

外山 昌一／大会実行委員長・シーボニアヨットクラブ理事

おもてなしの心で迎える

私がこの大会にかかわったのは3年前。JBSAからシーボニアヨットクラブが主催団体になってほしいと相談を受け、当クラブの理事会の決議、大野利美知理事長の了解を得て、本格的に取り組みました。

ボートショーへの出展、資金集め、使用艇のJ24の手配等、文字どおり事務局を軸に奔走しました。しかしここまでは、ヨットレースの準備ではよくある話です。

一方、これまでJBSAの皆さんは5大会連続でワールドに参戦していますが、参加選手、ビジターという立場なので運営サイドの情報がなかなか得られません。「空港からレース会場までは自力で移動」、「宿泊も食事リストをもらって手配は自前」、「宿からレース会場までも各自で行く」などということも初めて知りました。

私が大会実行委員長を仰せつかってまず念頭に置いたのは、これまでの海外大会から真似るべきことは真似て、できる限り日本らしさ、おもてなしの心を感じてもらえる運営を実現したいということでした。

国際大会では言語の違いは当然ですが、成田空港から会場への移動、会場と宿泊地の移動、さらに視覚検査、はたまた糖尿病やアレルギー発症を避けるための弁当の食材の厳選等、初めて体験する幾多の課題に突き当たりました。おもてなしの心で迎える大変さを実感しながら、できるだけ手弁当で、でもかかるところはしっかり投資して取り組むようにしました。ちょうどシーボニアヨットクラブ創設45周年の記念行事という位置づけも得

て、ヨットクラブメンバーの理解と多大な支援も受けることができました。

得難い経験

2010年10月に準備委員会を立ち上げ、12年4月からシーボニアのオーナーズルームで隔月に実行委員会会議を開き、確認、検討を重ねてきました。回を追うたびに本当に間に合うのかという不安が増しました。

海外対応や広報作業についても連日のようにミーティングを行いました。なかでもIFDS(視覚障害者ヨットの世界機構)による厳密な視覚検査への対応のため、視力、視野検査の精密医療機器を会場に持ち込み、19チームの全ブラインドセーラーが順番に検査を受けたことは得がたい経験となりました。今大会を機にブラインドセーリングというスポーツ、競技がますます発展することを願い、また今後でもできる限りの応援をしたいと思います。

大会の根幹を支えていただいた運営委員、プロテスト委員、メジャー、テクニカルデゲレートの皆様、ホスト会場での献身的な対応をしていただいたリビエラリゾートスタッフ、艇体の回航からメンテナンスをはじめとして組織力を発揮したJBSA、そして地元三浦をはじめとする50人以上のボランティアの方々の力で無事終了することができました。服部真湖さんによる開会、閉会式の司会、日本舞踊の演技も大好評でした。皆様のご支援、ご協力に心よりお礼申し上げます。なお大会最終日のJSAF名誉総裁であられる「高円宮妃 久子殿下」のご観戦、表彰式へのご来臨は選手、関係者にとってより一層意義のある大会となりました。

海外選手は本気モード
海外選手は本気モードで勝ちにきます。私たちは、ホームウオーターともいえる環境が、ややもすると油断に繋がりがかねないと思い、レース中は毎日全員ミーティングを持ちました。いい走りをした艇の情報を共有して次につなげ、世界選手権に参戦している選手であることを見覚するためです。個性や身体的能力の差を相互に認識し、補い合い、世界の選手と精一杯戦いました。15レースを終え、まだまだ上があることを思い知らされた結果にはなりませんが、確実にレベルアップしていることも実感できました。

チーム、主催国枠3チーム、B1、2、3の各クラスに2チーム、計6チームが参戦する体制が整い、私は最年長ということもあって、まとめ役の総監督の任を受けました。
主催者はレース艇として同一クラス艇をできる限り同条件にして準備するのですが、J24協会とオーナーの方々のご厚意で20隻を借りることができました。世界5カ国から13チーム、そして日本の6チームを迎えるために、最高の舞台を整えていただきました。



B1クラスに参加した日本艇(maka maka)(ブラインドヘルムは川添由紀選手)

これからは、ヨット競技の国際ルールを十二分に理解し、ハイレベルな戦いで勝利を目指すアスリートとしてのステータスアップを目指しながら、ブラインドセーリングの普及にも努めたいと思います。たくさんのご支援、ご声援をありがとうございます。ご支援をありがとうございます。(秋山 淳／日本チーム監督・日本視覚障害者セーリング協会副理事長)



www.gill.jp
Fortune Corporation
info@gill.jp

Recent Results

2013 21st Arirang Race

- IRC 1.KARASU
2.SECOND LOVE
3.DRAGON-GATE SURUSUMI
4.NOFUZO

第25回関東ミドルボート選手権

- 総合/GROUP A 1.Gaia
GROUP B 1.Adonis
2.Shark X

KYC COMMODORE'S CUP 2013

- IRC 1.SUMMER GIRL
2.WAILEA
3.CHOVE CHUVA
X350D 1.WAILEA
2.CHOVE CHUVA
3.FIVESTAR

Powered by NORTH SAILS

BS

価格を超えた価値

ノースセールのデザイン力が艇のポテンシャルを最大限まで引き出し勝利に貢献しています。

2013 春、日本各地のレースで、ノースセールユーザー艇が各レガッタで上位を独占し好成績を残しました。

インショアレースからオフショアロングレースに至る様々な条件下のレースで、その真価を発揮しています。



Faster by Design

www.jp.northsails.com

本社・横浜ロフト 045-770-5666
関西ロフト 0798-26-7771
北海道ロフト 0134-25-3227
info@jp.northsails.com

Sharon Green photo



タモリカップ、 横浜で開催

ヨットレース「タモリカップ横浜」が、今年8月31日と9月1日、横浜ベイサイドマリナーをベースに開催されることになった。

タ

モリカップといえは過去4回、沼津をベースに開催されている。回を追うごとに参加艇数が増え、昨年の第4回には81艇が集まる規模となった。西の阿波踊りカップ、東のタモリカップと称されるほどで、楽しいヨットレースの代名詞ともなり、大いに賑わいを見せている。

その「タモリカップ」ヨットレースが今年も横浜での開催となった。

8月31日が前夜祭、9月1日がレースとなる。

過去のタモリカップの盛り上がり、横浜という利便性が加わることを考えると、昨年のタモリカップを上回る参加艇数になりそうな気配だ。

同レースの名譽会長は言わずと知れたタレントのタモリさん。98年からJSAFのメンバーでもある。タモリさんは「レースの規模を大きくすることが目標のひとつです」と言い、今回の横浜開催に大きな期待を寄せている。

大型船の無線通信士になろうとしたほど「船」が大好きだったタモリさん、中学生のころから海を眺めては船のことばかりを考えていた。福岡市内の海水浴場で初めてオペティミストディンギーに乗り、ヨットに目覚めたという。しかし、大学に入ってからにはジャズに没頭し、しばらく海からは遠ざかった。ところが、ジャズサークルの先輩に徳島県のケンチヨビアを作ったヨットマン、故瀬川洗城さんがいた。その瀬川さんに連れられてスナイプに乗り、船の楽しさを思い出した。

卒業後にタレントとして活躍する一方、船への思いは募るばかり。40歳を過ぎたころによくや長時間が取れるようになり、海のきれいな駿河湾にクルーザーを進水させることになった。

その後、地元のヨットクラブでクラブレースやクルージングを楽しんでいたが、近年になりレースの参加艇数が減少し始めた。そこで、近隣のヨットクラブと合同レースを開催するようになり、そのレースにカップを提供したのがタモリカップの始まりだった。

「みんなに楽しんでもらいたいから」とタモリカップになってからは裏方に徹してきたタモリさん。その成果はみるみるうちにあらわれ、前夜祭や表彰式、アフターレースが充実し、日本で一番楽しいヨットレースとの評判が立ち、参加艇数はウナギ登りに増えていった。

さて、今年の「タモリカップ横浜」に関しては、現在、会場となる横浜ベイサイドマリナー、横浜ポート天国実行委員会、そしてJSAF神奈川県セーリング連盟とタモリさんが実施内容の詳細を協議中だが、山崎達光名譽会長もこのレースに興味を示している。

というのも、山崎さんはJSAFの会員を増やすアイデアをこれまであの手この手で考えてきた。オリンピックのメダリストを輩出することも、アメリカズカップ獲得を目指すこともその手段の一つだったが、他方で「ヨットは楽しいよ」ということを前面に打ち出し、多くの人が参加しやすいオープンヨットレ

スやレースを絡ませた海のイベントの可能性を考えていた折りも折り、今回の話を知った。

山崎さんは、大勢のセーラーやその家族、あるいはこれまでセーリングに興味を持たなかった層が注目するだろう「タモリカップ横浜」を絶好のPRのチャンスと捉え、「みんな思いっきりセーリングを楽しんでほしい。そして、JSAFの活動でもある海の安全やルールへの理解を深め、レベルアップしてほしい。また海環境保全、青少年育成事業等に賛同いただき、海を楽しんでいる人が一人でも多くJSAF会員になってもらえればありがたい」とエールを送る。

一方、「このレースは人に見せびらかせるのが目的」と笑顔で公言してはほかないタモリさんには、「なんでそんなにヨットは面白そうなのと人々に興味を持たせ、この世界に多くの人びとを引き入りたい」という気持ちがあるという。「横浜のレースが成功モデルとなれば、いろんなタモリカップのようなレースが生まれるかもしれない。このノウハウをどんどん真似ていただき、全国に広げたい。そうならば、時間の許す限り私はどここのタモリカップへも出かけ行き、みんなと一緒に盛り上げますよ」と意気軒高だ。今年の夏は横浜の海がにぎやかになりそうだ。



「タモリカップ 横浜」概要(案)

8月31日(土)
16:00~18:00 艇長会議&安全講習会
18:30~21:00 前夜祭 大バーベキューパーティ

9月1日(日)
09:00~ 海上パレード
10:00~14:00 レーススタート
15:30~17:00 表彰式 ピアパーティ
(※時間は目安です)
◇ホームポートは、横浜ベイサイドマリナー。
◇海上パレードは、マリナー内ではなく、洋上で開催予定。
◇パーティ場所は、ベイサイドマリナーホテル前(親水公園)です。前夜祭がメインパーティとなります。



外洋レース、各地で開催

今年のゴールデンウィーク、各地で外洋レースが開催された。島回り、ブイ回航、海峡横断、国際親善、地域おこし、ダブルハンドにフルクルーとそのレース形態は様々だが、みんなの真剣な姿勢、そしてヨットが大好き、という気持ちが伝わってくる。その中から6つのレースをピックアップ。各レースの選手や運営の方々にレポートしていただいた。

Line up

- RACE 1** 2013神戸・横濱ヨットレース
- RACE 2** 第7回たねがしまカップヨットレース
- RACE 3** 第25回ミドルボート選手権
- RACE 4** 第2回東京湾ダブルハンドヨットレース
- RACE 5** 第21回日韓親善アリアンレース
- RACE 6** 第12回台琉友好親善国際ヨットレース





穏やかな大阪湾を11艇がスタートした

2013神戸・横濱ヨットレース 外洋レースの登竜門として

■レポート／新田隆・レース広報委員長 ■写真／神戸横濱ヨットレース実行委員会事務局
http://www.kyryr.jp/

まずは参加艇ありき

昨年5月に行われた第3回沖縄レースは多くの参加艇を得たが、不幸な事故が発生してしまった。しかしこのレースに参加した艇の多くが外洋のヨットレースに対して熱い思いを抱いていることがわかった。

昨今インシヨアレースが盛んだが、島周りレースも参加艇が徐々にではあるが増加傾向にある。インシヨアのブイ周りレースでは味わえないフィニッシュ後の「達成感」が、長距離外洋レースで味わえるからではないだろうか。

昨年の沖縄・東海レース終了後、参加艇の有志が集まり、外洋ヨットレースに対する思いを語り合ったところ、「外洋レースを絶やさないようにしよう」「外洋レースを続けよう」という声が上がった。

神戸・横濱レースはそのような中で生まれた。

しかし、当初、神戸・横濱レースは参加艇が決まっていなかった。つまり、主催者が決まっていなかったのだ。通常のレースでは主催者がレースを企画し、参加艇を募集するのが一般的である。しかし神戸・横濱レースはまず参加艇ありきで、参加艇が「こんなレースをしたい」ということからすべてが始まった。

主催者に恵まれたレース

「大阪湾をスタートし東京湾でフィニッシュするレース」が何故今までなかったのか？ という問いかけに対し、スタートは神戸の沖合、フィニッシュは横浜という海域を決めた。友が島水道、遠州灘、浦賀水道と本船が行き交う中のレースであることから心配する声もたくさんいただいたが、当然のことである。これまで浦賀水道の近くでレースをすることは考えられなかった。

そこで、神戸・横濱レースに参加を表明した艇は、友が島水道を抜けるのに最適な航路、浦賀水道脇を安全に航行する航路をそれぞれが必死で勉強した。ブイ周りのレース以上に勉強した。今回、安全に本レースを終了できたが、この姿勢が安全にもつながっていたと感じている。

参加艇間の意思の疎通も通常のレース以上に図られた。神戸のハーバーに集結した参加艇は、どの艇も外洋レースに向かうヨットとして意志の強さが見え、輝いていた。

またこのレースは主催者にも恵まれた。参加者の「こんなレースをしたい」との思いを受け止め、神奈川県セーリング連盟が主催者となることを二つ返事で引き受けてくれた。今回のレースが実現した最大の要因で

ある。神奈川県セーリング連盟の貝道さんをはじめ、主催者が関係省庁への挨拶、下準備を周到に進めていただけたことは本当に素晴らしいことであった。

一方、「東京湾にレースをしているセーリングが入ってくる」という一見無謀にも思われる状況に対し、海上保安部からは「ヨットが1艇ずつ入ってくると考える」という見解をいただいた。これも神奈川県セーリング連盟の関係各所に対するレースに対する地道な説明の結果であった。

フィニッシュして横浜ベイサイドマリーナの桟橋に舳いをとった時の達成感はこのレースを走りきった仲間間でしか味わえない格別なものだった。さらに横浜ベイサイドマリーナのホスピタリティーはまるで海外のレースに参加していると錯覚をするほど素晴らしいものであった。

外洋レースを絶やすな

このレースは2年に一度、開催する予定である。次回は2015年の予定で、その準備はすでに始まっている。

2014年には沖縄レースが予定されている。ということは、日本の海で沖縄・東海レース、神戸・横濱レースが隔年で行われることになる。神戸・横濱レースはこれから外洋レースに挑戦しようとするヨットやセーラーの登竜門として位置づけられればよいと考えている。

「外洋レースを絶やすな」の言葉を信じ、このレースに協力をしていただいたすべての関係者の方々にこの場を借りてあらためてお礼を申し上げたい。また今回のレースが成功したと評価を受けていることを真摯に受け止め、次回の神戸・横濱レースに向け精進したいと考えている。



優勝したTREKKEE>チーム。前列で優勝カップを持つのが新田隆オーナー



第7回たねがしまカップヨットレース

ようこそ、おじゃり申せ!

■レポート/宇都光伸・レース委員長 ■写真/剝岩政次
http://www.jsaf.or.jp/m-kyusyu/

鹿児島島の3大外洋ヨットレースの一つ

鹿児島湾の南東海上、とうとうと流れる黒潮のなかに浮かぶ種子島。

歴史の教科書にも登場する、鉄砲伝来の地としてあまりにも有名なこの島を「ヨットレースで盛り上げたい」「島の子どもたちに夢や希望を与えたい」。そんな思いを込めて2006年に始まった、「たねがしまカップヨットレース」も今回で早くも7回目を迎えることとなった。

今や7月の「鹿児島カップ火山めぐりヨットレース」、8月の「ミシマカップヨットレース」とともに、鹿児島島の3大外洋ヨットレースという位置づけで認識されるに至っている。

4月の末、ゴールデンウィーク前半に行われるこのレース、暑くもなく寒くもなくアウトドアスポーツには最高の季節ではあるが、実は夏冬の高気圧圏の狭間の中、天候が不安定で、過去の大会でも時化あり風あり、参加各艇を悩ませてきたレースでもある。

さて今回のレース、これまでの鹿児島湾口をスタートし、種子島の西之表沖港でフィニッシュというコースから趣向を変えて、正反対の西之表沖スタート、鹿児島湾口フィニッシュという約32マイルのコースが引かれた。島民の方々にダイナミックなクルーザーレースのスタート風景を楽しんでもらいたい、という考えからだ。

タイムリミットは8時間。ただし前年までのコースと違い、黒潮に逆らっての帆走となるため、かなり厳しいレースとなることも予想された。

数日前の気象の予想では、レース当日は風、波とも穏やかでレース成立が危ぶまれるほど。前夜祭での各艇の話題もいかに微風と逆潮を攻略するかという話で持ち切り。さらにその片隅ではリタ

アのタイミングについて相談する声なども聞かれる始末……

最高のホスピタリティーを感じる島

さて、当日の朝。スタートライン近くの砂浜には島民の皆さんが観戦に集まり、応援して下さる中でのスタートとなった。風は北寄りで予想通りの微風。しかしスタート直後から、時間とともに風向が東寄りに振れると、風力も徐々に強くなっていく。

前夜祭のレセプションでの迫力満点の和太鼓の演奏の際、「明日の風は大丈夫ですよ、これで風神を叩き起こしますから」と言われていた島の方の言葉通りの状況となった。ベタ風の予報に心重かった主催者側としてみれば種子島の風神様にただただ感謝、の一言である。

そのような海況で、18艇が参加したレースの展開は意外と早く、スタート約4時間後の12時38分20秒、南海の雄<Vintage8> (IMX40) が堂々のファーストフィニッシュを決めた。後続艇も順調にフィニッシュし、各艇大きな怪我や事故もなく15時43分、今年も無事にレースを終えることができた。

黒潮の中、温暖な気候風土で生まれた島民性だろうか、とにかく種子島の人は温かい。私たちヨット乗りを大いなる笑顔で迎え、心からもてなして下さる。最高のホスピタリティーを感じる島、それが種子島であり、たねがしまカップヨットレースなのである。

ゴールデンウィークに南西諸島方面へ遊びに出かけるかたわら、ちょっと足を止めて種子島に立ち寄られてはいかがだろう。そしてその日程の中には是非「たねがしまカップヨットレース」への参加も加えていただき、私たち鹿児島島のヨットマン

たちと盃を酌み交わしていただければこれに勝る幸せはない。

「ようこそ、おじゃり申せ!」(ようこそおいで下さいました!)の不思議でどこか心地よい言葉の響きがヨットを、皆さんをお迎えることだろう。



レースはこれまでとは違う西之表沖スタート、鹿児島湾口フィニッシュという約32マイルのコースが引かれた



スタートライン近くの浜には島民の方々が観戦に集まった

外洋レース、各地で開催

諸氏に加え、公益社団法人関東小型船安全協会から黒川曉博会長と今井宏主任海上安全指導員も臨席いただき、盛大なパーティが開催されました。

男性はタキシード、女性はセミフォーマルといったドレスコードで普段では見られない格調の高い雰囲気の中、スバル興業の戸井田昌久マリナ事業部長の発声で「乾杯」。美味しい料理とシャンパンが饗されるにつれ、明日のレースに向けての舌戦があちこちで展開されました。

遠来賞やセーリングスピリット賞の表彰からご来賓のご祝辞と続き、いよいよパーティの目玉とも言うべきベストドレッサー賞の発表です。女性の参加者の中から審査で選ばれた幸運なレディにティアニーのパール首飾りが贈られました。プレゼンターの山崎達光氏もご満悦の様子でした。

参加艇と同じ数のドラマが……

パーティの興奮とお酒も冷めやらぬ翌28日は、遠くに白富士が望めるほどの上天気。早朝の6時頃にはすでに運営スタッフがマリナに集まり、レースに向けての準備や打ち合せで活気づい

ていました。

参加艇は続々と出港し、8時過ぎにはレース海面は多数のヨットが行き交い、一気に戦闘モード。各艇海上エントリーを済ませ、予定どおり9時にクラスAがスタート。風は北北西7~8m/s。回航マークは180度に6.5マイル。全艇クリアで一斉スタート。直後に次々とスピニングアップして、見る見る遠ざかって行きます。

クラスBはゼネリコの後、クラスAから40分遅れて再スタート。その後、風は北から西へと振れはじめ、クラスBの艇団が回航する頃には、すっかり南に振れ、風速も4~5m/sまで落ちてきました。その後、スタートから2時間もたたないうちにファーストホーム艇が見事フィニッシュ! 14時には全艇がフィニッシュしましたが、途中ブローチングやらセールを破いたり、参加艇と同じ数のドラマがあったようでした。

表彰式を待つ間、マリナのそこかしこではいつものように、終わったばかりのレース談義に花が咲いていました。スタートのポジション取りやコース取りの反省、セールチェンジのタイミング等々、声高に意見をぶつけ合いながら、レース結

果への期待も含めて一段と熱くなる時間でありました。

18時からアトリウムで結果発表と表彰式。

河西ハーバーマスターの挨拶に始まり、レース運営本部をお手伝いいただいた小安協の黒川会長と今井海上安全指導員のお二方へのお礼とご紹介のあと、いよいよ市川レース委員長からレースの講評と結果発表がありました。

クラスAの栄えある優勝は去年に引き続き2年連続で西宮から遠来参加の<王子丸>、準優勝は<LION HEART>、3位<PASTIME2>と続きます。クラスBの優勝艇は夢の島をホームポートとする<イーグルI世>、準優勝は浦安の雄<隼スピリットII>、そして3位は<SPRAY>という結果でした。

お洒落なティアニーカップや豪華な賞品を手にした表彰者の挨拶を聞きながら、来年こそは、と皆思ったに違いありません。

運営スタッフの皆さまはじめ、参加者ならびにサポートの皆さま、お疲れさまでした。来春もまた熱い東京湾にご参集いただければと思います。

3 RACE

第25回ミドルボート選手権 秒差を争う 白熱したレース展開

■レポート/関根照久 ■写真/野口隆司・レース広報委員
<http://www.geocities.jp/middlekantoh/>

理想的なコンディション

全長26～36フィートのミドルボートクラスにとって、ゴールデンウィークの恒例となっているミドルボート選手権も第25回を迎え、今年もシーボニアをベースに開催されました。

西は静岡県、東は宮城県から回航組を交えてAグループが15艇、TCCの小さいBグループが16艇の参加となりました。

4月の週末は天候に恵まれず十分な練習ができなかったチームもありますが、この日のためにとっておいたのではないかといいほどのいい天気、いい風に恵まれました。5月と言えばメイトームの季節であり、1日は吹かれるのがミドルですが、今年は最高でも15、16ノットと、理想的なレース条件を作ってくれました。

気持ちのいいレース運営

ORCクラスが成立しなかったのでIRCクラスのみとなり、全31艇が同時スタートとなりました。

5月3日の初日は朝から北東の気持ちよい風が吹いていましたが、予告信号の時間が近づくと不

安定になり始め、思い切りよくAP旗があがり風待ちとなりました。南風が入って来るのは確実ということで、いい風を待っていいレースをするミドルボートの運営方針を実行しています。

2時間の風待ちの後 第1レースのスタートは12時半を超えましたが、適度なシーブリーズの中、レースが始まりました。

1クラスだけなので風向の変化にも対応しやすく、的確にブイの打ち変えも行われましたが、水深60mを超える海面でブイを打つのは楽ではありません。Aグループが<写楽>、Bグループが<FELLOWS>とそれぞれ昨年の覇者がトップとなり順当な滑り出しを感じましたが、<QUETEFEEEK> (MELGES32)、<CenturyFastGP> (NM/GP33)、<Ripple> (FARR30IOD) のスポーツタイプ3艇がOCSとなり、波乱の予感も感じさせる第1レースとなりました。

続く第2レースは14時22分のスタート。

スタートでリコール艇が読めなくなればゼネリコ。しかし、ゼネリコの後にはレース艇を待たせず、どんどん次のスタート手続きに入る気持ちの

いいレース運営です。クルーザーレースのゆったり時間に慣らされているとちょっと忙しく感じますが、すぐに予告信号が上がるとなるとゼネリコ後もすぐに帰るので効率的です。

このレースではAグループの2艇が接触し、リタイアとなってしまったことが残念ですが、<STARBORD JR>の救済の要求が認められ全レースの平均順位が与えられることになりました。

秒を争うレース展開

5月4日も同じように風待ちから始まりましたが、順調に南の風が入り2レースを消化。15時9分に第5レースをスタートさせることができ、予定のインシヨア全5レース消化することができました。

5日のショートディスタンスが成立すると全レースが実施されることになり、ブイ回り5レースのうち1レースを捨てられます。各艇ライバル艇との得点差など考えていたのではないのでしょうか。

ショートディスタンスは南西沖ブイ、佐島沖ブイを回って小網代へ帰る16マイルほどの大三角形です。北東の風で始まったレースは岸寄りのコースがよく、沖のフリートが大きく出遅れました。ポイントが1.2倍になるためグループBでは大きく順位の変動があり、優勝の<ADONIS>は変わらないものの、前日まで6位だった<SHARK X>が2位に浮上してきました。IRC総合ではやはり大型が強く、<GAIA>、<写楽>、<ADONIS>という順位になりました。

秒を争う白熱したレースをすることができ、来年もまた皆さんが集まってくれることを期待しています。



Aグループ優勝の<GAIA>



Bグループ優勝の<ADONIS>チーム



オープンクラスで優勝した<SAMOA>

4 RACE

第2回東京湾ダブルハンドヨットレース 関西からの遠来組もまじえ 62艇が参加

■レポート/石井勉・東京ヨットクラブ広報委員会
<http://www.tyc.gr.jp/>



クラスBの優勝は夢の鳥をホームポートとする<イグルI世>



西宮から参加の<玉子丸>がクラスAで優勝

盛大な前夜祭パーティ

昨年春、東京湾で初めてのダブルハンドヨットレースとして開催され、第1回にもかかわらず73艇の参加という大きな反響を得た本レースが、今年も4月28日に開催されました。東京湾や関東近海だけでなく、西宮からの2艇も迎え、計62艇の参加がありました。

レース前日の27日17時から舞浜のサンルートプラザ東京で艇長会議が開かれました。説明後の活発な質疑応答からもすでにレースが始まっているかのような熱気が感じられました。

艇長会議の後、同所のマグノリアホールで、各艇長に加えてクルーおよびサポートメンバーやゲストも含めて200名を超える参加者を迎え、華やかなウェルカムパーティの始まりです。

大会名誉会長として最初に挨拶をいただいた日本セーリング連盟の河野博文会長をはじめ、山崎達光同名誉会長、オリンピック招致委員会事務局長を兼務されている小山泰彦理事、そしてNPO法人マリンプレイス東京理事長で東京都ヨット連盟の藤沢誠一副会長などヨット界の錚々たる重鎮



高層ビル群を背景にスタートする参加艇



末松明玄海ヨットクラブ会長(右)と金 兌鎔(Kim Tae-Il)釜山セーリング協会会長

第21回日韓親善アリランレース 日韓セーラーの苦労と努力の結晶

■レポート/冬至克也・レース委員長、写真はレース実行委員会提供
<http://www.genkai-yc.com/pc/arirang.php>

当初は苦労の連続

韓国釜山から博多までの107マイルを競うアリランレースは1973年に始まった。

博多湾のヨットマン数人が国交回復後間もない韓国を訪れ、帰りはレースをしようとしたのがきっかけである。以来、隔年のゴールデンウィークに行われ、今年で21回、40周年を迎える。

当初は苦労の連続であった。

まずは回航。韓国側からの要請で、全艇が船団を組み、朝に入港せねばならなかった。小型艇から大型艇まで船団で夜間に航行するのは、特に強風下では至難の業で、危険でもある。

泊地にも悩まされた。多数のヨットが一堂に舳る場所がない。釜山港内や海洋大学の岸壁で横抱きにするか、ある年には杭を持参して海中に打ち、これに舳いとることもあった。

大きく変わったのが1988年のソウルオリンピック開催のとき。セーリング会場として釜山ヨット競技場が建設されたことで泊地の心配がなくなり、入出国手続きもすべてここで行われるようになった。今は単独でいつでも釜山に渡ることができる。まさに隔世の感があるが、長年このレースが続いてきたのも日韓先達諸氏の苦労と努力の賜物である。

レースは対馬厳原から始まる

韓国に最も近い対馬厳原に、出国手続きを希望する艇が集まるためだ。

世話をしてくれるのは対馬セーリングクラブの面々。各官庁と打ち合せを重ね、支障なくことが運ぶよう準備万端を整えてくれる。今年も参加約半数の14艇がここから出国した。

対馬は朝鮮半島から最短で30マイル足らず。晴れた日には釜山が見える。黒潮の支流、対馬海流が育んだ魚介類は身が締まり美味しい。切り立った山裾は直接海へと滑り、険峻な島の印象を与えるが、島を上下(かみしも)に分ける万閑瀬戸から浅茅(あそう)湾に抜ける水道は、迫りくる兩岸の眺めが実に風光明媚で、玄界灘を渡ってきた疲れを癒してくれる。アリランレース以外でもぜひお勧めしたいクルージングスポットである。

まずは入国手続き

5月1日、アリランレースの公式日程の初日である。

まずは入国手続き。釜山セーリング協会(BSAF)の尽力で手際よくことは進む。釜山ヨット競技場では、アリランレースに限らず日常的に入出国手続きが行える。BSAFが代行し、手数料も原則無料。釜山を訪れるプレジャーボートにとって、この上なく便利である。詳しくは玄海ヨットクラブのサイトを参照されたい。(http://www.genkai-yc.com/pc/ciq_doc.php)

例年であれば翌2日はBSAF主催の「釜山市長杯レース」が開催されるのだが、「Busan Super Cup」と名を変え、今年は既に4月28日に終了している。5月2日は平日のため韓国艇の参加が増えず、今年はアリランレースの前週に行われたというわけだ。

韓国では国を挙げて海洋スポーツの振興を計っており、各自自治体とヨットクラブがかなりの予算を組み、それぞれにイベントレースを開催するようになった。

イベントレースの開催は各水域間の競争を煽り、それぞれ賞金や回航補助費がついている。その額もBusan Super Cupで優勝賞金1500万ウォン(約135万円)、回航補助費最高300万ウォン(約27万円)と高額である。日本では考えられないことで賛否両論あるが、参加は78艇を数えている。

<KARASU>優勝

5月3日、いよいよスタート。

注目艇は<KARASU>(SUMMIT-40)、先鋭的なフォルムでBusan Super Cupで圧勝した<GUST>(KER-40)というところ。第52回パールレースでファーストホームを果たした<MONDAY NIGHT>(SPRINT50MOD)、アリランレースの常連で第16回優勝の<NOFUZO>(X-41 OD)も目が離せない。地元博多からは、地の利のある<SECOND LOVE>(FARR-395)、新進気鋭の<DRAGON-GATE SURUSUMI>(XP-44)が迎え撃つ。

12時00分、東南東4m/sの風に乗る、全28艇

オールフェアでスタート。

<GUST>が号砲と同時にタック。そのまま南に向かう。各艇もこれに続き<GUST>が船団を率いる形になった。ウェイポイントである対馬北端の三ツ島までは30マイル弱。風は南南西にシフトするとともに6m/s上がる。ここで<MONDAY NIGHT>がトップに立った。

夜を迎え、沓岐の灯りが見えてくると風はさらに南西にシフトし8m/sまで上がった。各艇順調に進んでいたがその後風は落ち、夜半にはほぼ無風となった。ここをうまく切り抜けた<MONDAY NIGHT>が4日04時00分45秒にファーストフィニッシュ。次いで<GUST>、<KARASU>がデッドヒートの末、相次いで号砲を受ける。さらに<SECOND LOVE>、<DRAGON-GATE SURUSUMI>、<NOFUZO>が続き、全艇が夕刻までに帰着。

修正では<KARASU>が第21回アリランレースの覇者となった。オープンクラスは<PRIMADONNA>が1位であった。

ご報告

最後に悲しい報告をしなければならない。

レース参加のため釜山に回航中の一木正治氏(60歳)が対馬北端三ツ島の北西10km海域で作業中に落水するという事故が起きた。当時三ツ島灯台では北の風18m/sを記録している。ライフハーネスは付けていたものの荒天で引き上げることができず、海上保安庁に救助を要請。ヘリコプターで搬送したが病院で死亡が確認された。

氏は大学ヨット部出身。雑誌「KAZI」「ヘルム」[ヨットینگ]の編集者として、セーリングの喜びと海に潜む危険を長年にわたり我々に伝えてきた。知識と経験を十分に積んだ人であっても、事故は一瞬の隙をついて襲ってくることをあらためて思い知らされる。

本大会では開会式で黙祷を捧げ、レース中現場付近で全艇から献花を行った。閉会式では艇長から、ヨット界全体の問題として今後事実を解明し報告したいとの一言があった。

この事故に際し自らを戒めるとともに、一木氏の冥福を心からお祈り申し上げます。

RACE

第12回台琉友好親善国際ヨットレース 新石垣空港開港記念として開催

■レポート／深見和壽・レース実行委員会事務局長、八重山号船長
<https://www.facebook.com/tairyuyacht>

このレースの歴史

沖縄県石垣市と台湾はバシー海峡を起源として北上する黒潮海域を挟んで、わずか140マイル弱の距離に位置しています。

戦前、戦後を通じて両市民は経済的にも、文化的にも深い絆で結ばれており、石垣(八重山諸島)には明治以降台湾からの移住者が多数定住し、新たな作物であるパイナップルをこの地域にもたらし、観光で有名な水牛も農作業用動物として彼らが台湾より導入しました。

そんな近い外国とのヨットレースが1998年4月のゴールデンウィークに沖縄県内のヨット愛好者によって計画され、地元八重山ヨット倶楽部と中華台北帆船協会が中心になり第1回を実施しました。台湾側からの参加艇はなく、日本からの6艇のみエントリーでの大会でしたが、台湾側関係者のホスピタリティは感激に値するもので、私たちは友好関係を実感しました。

その後、台湾花蓮市と姉妹都市の与那国町の主催で与那国・台湾花蓮のレースを2回開催し、台湾側から1、2艇の参加を迎えました。

さらにその後、与那国町が主催を止めたのに伴い、沖縄宜野湾マリナーをホームポートにする有志及び中華台北帆船協会、基隆体育会帆船委員会及び八重山ヨット倶楽部による実行委員会が立ち上がり、2005年から毎年、宮古島ヨット倶楽部と交互にホスト倶楽部となり、2008年にはNPO八重山ヨット倶楽部と基隆市体育会帆船委員会との間で姉妹倶楽部の締結をし、今年で12回目を迎えました。

日本側からの参加艇は毎年10艇程度で推移していますが、台湾からの参加艇は年々増加し、今年第1レース(基隆島一周レース)を含めると18艇の参加があり、台湾地域のヨット愛好者の盛り上がり、経済の発展を感じさせます。



カタマラン型観光船が運営船兼観覧船として準備され、石垣市民がヨットレースを実感できるようにした

新石垣空港開港記念CUPとしての取り組み

毎年レースの実行委員会を立ち上げても、石垣市等行政機関のかかわりは名目上のことが多く、実質、ヨット倶楽部のできる範囲内での運営をしてきましたが、今年新石垣空港の開港を3月7日に迎え、記念のレースとして位置づけられました。新空港の開港によって台湾との関係がより深まる期待と、観光の呼び水としてのこのレースの役割を共通の認識として、本格的な実行委員会が昨年6月に立ち上げられました。

実行委員会は広域市町村会会長石垣市長を実行委員会会長とし、竹富町町長、与那国町長、石垣市企画部、市港湾課、国機関石垣港湾事務所、観光課、観光協会、商工会、華僑総会等を網羅し、事業内容、資金計画及び調達を今までにないマンパワーで行い、例年にない規模になったと思います。

たとえば一回目の交流会(旧離島棧橋での野外中華、八重山の食材の屋台夜市)には一般市民や観光客が参加し、石垣市民がヨットレースを実感できるようにドリーム観光大型カタマラン観光船をレースコミッティート兼観覧船とし、石垣市内に近い名蔵湾でのブイ廻航4マイルレースの開催など、きめ細かな交流レースになりました。

ただ今回の計画の一般への宣伝活動はまだまだ不十分で、今後の課題です。来年は宮古島ヨット倶楽部がホスト倶楽部になります。宮古島では長年にわたり工事中であった伊良部島との長大橋が完成し、伊良部架橋完成記念CUPとなるのでしょうか。

レース運営の充実

レースは12回目を迎えましたが、これまで事故はありません。しかし基隆～石垣は136マイ

ルあり、一昼夜のレースとなります。

この海域のこの季節の海象は不安定で、いつ前線通過による荒天に遭遇してもおかしくありません。

スタートから6時間くらいはレース艇が肉眼で見える位置にいますが、それ以降は広い海面に自艇だけとなります。

また、夜中、黒潮の潮流を利用して東南アジアからの本船がオートパイロットによる夜間航行をするため、夜間のレース中の見張りは欠かせません。過去何度も夜間仮眠中の八重山の漁船が本船に衝突され、遺体さえ発見できていない状況があります。

そのような海域で荒天、本船航路を横切る時の見張り、夜間操業の漁船との遭遇の可能性など危険を予知しながら、このレースは行われています。

そこで陸上コミッティへの定時連絡は重要で、参加艇は決められた時間に衛星電話による報告を行い、コミッティはこのレース海域の気象及びレース参加艇の安全を確認します。

そして与那国島以西は台湾コーストガード、与那国島以東は石垣海上保安部が担当し、有事の際の連携の確認を行っており、レース参加艇のリストはそれぞれのコーストガードが同じ情報を把握し、夜間も含めてウォッチされています。

また、今回は中華台北帆船協会の常任理事の郭廷祥氏とJSAF理事の剥岩政次氏が運営に参加し、レース通告、帆走指示書、通信指示書、安全マニュアル等より充実したレース運営となり、安全面に関してもより高度な計画が立てられたものと思います。

*この後レースの詳細が続くのですが紙幅が足りません。つづきは19ページに掲載いたします。(編集部)

外洋レース、各地で開催



レース艇から見たスタート前のフリートの様子

成果を見せ始めた

JSAF教職員就職プロジェクト

JSAFにはユニークなプロジェクトチームがある。その名も「教職員就職プロジェクト」。

ヨット競技人口の減少

今から20年ほど前、関東学生ヨット連盟の加盟校は約50校を数え、関東インカレは予選を3ブロックに分け、上位5校が決勝に進むというシステムでした。

ところが、平成25年度関東学生ヨット春季選手権大会では470級の参加校数は23校、スナイプ級は17校といった状況です。

すなわち、インカレ参加校が20年前の約半分に減り、多くの大学のヨット部が休廃部状態となっているのです。出場している大学も、部員数が足りないため両クラスへの参加を断念する大学、あるいは3艇揃わずに参加している大学も見受けられます。

一方、経済不況などの影響もあり、企業ヨット部の数も著しく減少しています。また、JSAFに登録する高校ヨット部も最盛期の150校から、平成20年度145校、21年度127校、22年度122校と減少しています。

高校ヨット部減少の理由

高校ヨット部が減少している理由の一つに、指導者の不在があります。ヨット部のある高校の73%は公立校

です。公立高校は先生の定期的な異動も多く、そのため必ずしもヨット経験者がヨット部の指導に当たっているとはいえない状況があります。

また、クラブ活動を受け持つ指導者は、ほとんどの休日をクラブ活動に費やし、監督責任も重くのしかかることから、ヨット部に限らず、体育系クラブの指導者を引き受ける先生が少なくという事実もあります。

ヨット界の底上げ

諸外国では地域に根づいているヨットクラブがヨットマン育成の母体となっていますが、日本では高校や大学の課外教育としてのヨット部が競技ヨットマンの育成を担っています。

地域のヨットクラブとしてジュニアやユースクラブ等も多く存在しますが、そのジュニアセーラーもいずれば高校・大学へと進学し、トップセーラーを目指すことになります。ですから、大学、高校を問わずヨット部の顧問、部長、監督やコーチといった指導者の熱心な指導とその熱意が日本のヨット界を支える礎であると言っても過言ではありません。

したがって、1人でも多くのヨット経験者を教職員として送り込み、これ

からのセーリング界を背負う若きセーラーに対し、熱心な指導を施すことがヨット界全体の質の底上げに寄与するものと確信します。

これが「JSAF教職員就職プロジェクト」の狙いなのです。

教職員育成の課題

ご存知のように、学校の先生になるには教員の普通免許状が必要です。それを得るには、大学では教職課程を履修せねばなりません。

体育会ヨット部に所属する学生が授業、合宿、練習、バイトに加えて教育実習を含む教職課程を取得することは簡単ではありません。各水域の学連に教職課程を履修している学生の数を問い合わせたところ関東学連17名、関西学連20名、他の水域は10名以下です。

一方、いくつもの困難を乗り越え教職課程を修了しても、次には教職員採用試験が待っています。

ヨット部を持つ高校の73%の学校は公立校であり、その教職員になるためには各都道府県あるいは市町村の教職員採用試験に合格しなくてはなりません。昨今、教職員採用試験は不況時の公務員人気の影響もあり、大変な狭き門になっています。

そして、晴れて教職員採用試験に合格しても、採用が保証されているわけではありません。また、ヨット経験者だからと行つてヨット部がある学校に赴任できるわけではありません。ある県では、ベテランの先生の希望が優先され、新卒の先生は欠員が出た学校に配属されるとも言われています。

JSAFの取り組み

これらの課題に対して、JSAFの「教職員就職プロジェクト」では次の取り組みを実施しています。

「教職課程履修者を増やす」
全日本、あるいは各水域の学連会議の場で、各学校に対して教職課程の履修を勧めてほしい旨、また教職課程履修者に対する理解を得られるよう会議などで出席者にお願いをしています。

「教職員採用試験」

採用試験の一次試験については、受験者各位のがんばりで突破してもらおうしかありません。しかし、その後の面接試験（二次試験）については元教育長など経験豊富な方々から2次試験の傾向と対策や模擬面接等の指導をいただける機会を用意しています。

「赴任先」

教職員採用試験の受験者に関する情

BALTIC
LIFEJACKETS SWEDEN

ハーケンジャパン株式会社
〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜 2-42
TEL:0798-22-2520 FAX:0798-22-2521
MAIL: info@harken.jp WEB: http://harken.jp

OFFSHORE ハーネス付ライフジャケット

JSAF 教職員就職プロジェクトについて

愛媛県をセーリングで盛り上げたい

私は大学在学中に教職課程を履修し、教員免許状を取得しました。卒業前の夏くらいから教員採用試験を受けようと思っていたのですが、その頃にJSAFのプロジェクトがあることを紹介していただき、その支援を受けさせていただくことになりました。

まず履歴書をJSAFへ送付し、そこから全国の県連にその履歴書を送付してもらいました。そこで私に興味を持っていたのが愛媛県でした。その後、連絡を取り合い、実際に会って話し合いをし、教員採用試験を受けることを決めました。私は神奈川県出身なので愛媛県の採用試験を受けるかどうかは悩んだのですが、現地を見学し、話をするなかで、「愛媛県をセーリングで盛り上げたい」という気持ちが高まり、受験を決意しました。

教員採用試験はご存知のように難関であり、倍率が10倍を超えることも少なくありません。とくに愛媛県の場合、私の受験教科である公民科は毎年の募集が若干名でした。そんな試験に臨むにあたって力になったのが、愛媛県の採用試験で実施されている「スポーツ加点制度」です。

人生で一番勉強した

これはスポーツの実績を点数化し、一次試験の点数に加点するという制度で、私の場合はその制度で設けられる加点の満点をいただくことができました。

ただ、それだけで一次試験を突破するほど採用試験は甘くありません。大学で実施されていた採用試験対策講座を受講したり、採用試験の過去問題を繰り返し解いて傾向を分析したりするなど、受験前1年間ほどの毎日は人生で一番勉強したのではないかと、思うほどでした。おかげで一次試験当日は落ち着いて試験に臨むことができ、問題を解き終わった後にそれなりの手ごたえを得ることができました。

一次試験に合格した後は、二次試験の小論文、面接対策です。小論文は教育雑誌や新聞を読み、世の中の教育界の動向をチェックし、面接では自分のアピールできる点をリストアップし、わかりやすく伝えるような練習をしました。一次試験から二次試験までの間は一次試験のそれよりも短いため、効率よく練習できる

ようにすることが大変でしたが、当時は教育現場で仕事をしていただけ、その経験も活かしたと思います。

二次試験の面接では、ヨット競技はやはり珍しいためか、質問の中でも「ヨット競技はどんな競技なのか?」といったものが出るようなこともありましたが、それ以外は教育実践に絡んだ内容でした。

ヨットをやっていたよかった

ヨットをやっていたよかったなと思ったことは「場面指導」という面接です。これは学校現場でのある場面を提示され、「あなたならその対応をどうするか」と考えて答えるといったものですが、このような一瞬の判断力や集中力といったものは、ヨットレースにおける風を見る力であったり、他艇との駆け引きであったり、マーク際での攻防であったりと、そのような一瞬面食らってしまうような面接でも、「いつも海でしていることと同じだな」と思うことができたことは非常に大きいです。

結果として二次試験も合格し、この4月より愛媛県の高校で教員として働いています。赴任先は2017年の愛媛国体のセーリング競技会場に一番近い高校で、これから愛媛のセーリングを盛り上げていくための環境を、多方面からJSAFの方々へ支援していただいていると実感しています。

毎日ヨットのことを考えられる

平日は仕事に追われ、休日は海に行ってしまうため休む時間もあまりない日々ですが、昔からの夢であった教員として、さらにヨットの指導者として、加えて選手としてこの地で生きていくことができ、好きなヨットのことを毎日考えられるという、とても充実した日々を送っています。

神奈川からは離れてしまいましたが、私事ですが今年結婚し、愛媛でも一人ではなく、新しい家族で過ごすことができていることも、毎日の支えになっています。

教員採用に至るまでは多くの方々に支えていただきました。これからもいろんな場所で、いろんな海でお世話になると思いますが、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。(望月 航/愛媛県立新居浜東高等学校 教諭)

報を受験前に県連に報告し、採用試験合格後は赴任校が決定するよう、あるいはヨット部のある学校に赴任できるよう、県連等に対して、赴任希望校に関する情報収集や教育委員会に対する陳情等の支援をお願いします。

【その他】
国体、高体連等の会議で情報収集や「教職員就職プロジェクト」に対するご理解とご協力いただけるよう啓蒙活動を行っています。

平成24年度の成果

この結果、平成24年度は6名のヨット経験者を高校に送り出すことができました。この場をお借りしましてご協力いただいた皆様へ心よりお礼申し上げます。今後もこの活動を続けていきたいと思っておりますので、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。(天辻康裕/教職員就職プロジェクト)

平成24年度 教職員就任者

①氏名 ②出身大学 ③赴任先 ④ヨット部の有無

- ①望月 航
- ②中央大学 ③愛媛県立新居浜東高校
- ④設立準備中

- ①大矢 勇輝
- ②早稲田大学 ③和歌山県立桐蔭高等学校
- ④無

- ①吉本 彼方
- ②和歌山大学 ③和歌山県立神島高等学校
- ④無

- ①田中 あゆみ
- ②和歌山大学 ③和歌山県立藤戸小学校
- ④無

- ①中村 孝宏
- ②鹿屋体育大学 ③茨城県立土浦工業高等学校
- ④無

- ①安田 真之助
- ②鹿屋体育大学 ③京都府立宮津高等学校
- ④有 ヨット部顧問

夢にむかって・・・ セーリングのナショナルチームとユースチームを応援します!

ナショナルチーム・ユースチームの海外遠征の手配、
インド洋の楽園 セーシェルへのリゾートツアー、
障害者スポーツの海外派遣、
フランスへの個人語学留学の手配、
業務渡航その他、海外への各種渡航手配を行っております。

株式会社 **グロリア ツアーズ** TEL:03-6661-9080 (代表) <http://www.gloria-tours.jp>

神奈川県における 会員登録の取り組みについて

神奈川県セーリング連盟のJSAF会員登録が増加傾向にある点について、どのような方法を取ったのかをまとめてみました。

近年、会員登録のほとんどがJSAFホームページを利用した申し込みになっています。数年前までは、登録用紙を郵便やファクスで送り、返信を待つて受け付けていましたが、ウェブ一本に絞って対処することによって左表のような効果が生じていると思えます。

ある時、「ウェブで申し込んだのに、その後の連絡が来ません」というお叱りのメールを受けました。

発信者へ確認したところ、案内には赤字で「確認メールをお送りします」と書かれていることを伝えられました。これを受けてその後、「申し込みをした方は、今、何を欲しているのか」を考え、「新規申し込み者ウェブ対応返信案内書」を作成しました。さらに、ウェブから申し込みされた方には、できるだけ当日中に返信するように心がけました。具体的には下記のような作業になります。

神奈川県セーリング連盟 年間会員受け付け数の推移

年	会員数	前年比
2004年	389名	
2005年	454名	+16.7%
2006年	405名	-10.7%
2007年	403名	-0.4%
2008年	390名	-3.2%
2009年	675名	+73.0%
2010年	580名	-14.0%
2011年	643名	+10.8%
2012年	734名	+14.1%

JSAF会員増強に向けた実例と新たな取り組み

もっと海の仲間を増やそう!

JSAFが会員増強プロジェクトをスタートして2年が経過しました。

本誌92号では「みんなでもっと考えよう JSAFの将来を」と題して、

JSAFの現状をJ-SAILING読者に伝え、具体的なご意見もいただきました。

今回はこの8年間で会員数を345人、88%増に大幅に増やした神奈川県セーリング連盟、

そして外洋ヨットレースを通じて会員を増やそうという

新たな取り組みを始めた外洋南九州についてご紹介します。

鈴木修 / 会員増強プロジェクトチームリーダー

ウェブ申し込み者への対応方法

JSAFのホームページから登録の申し込みをされる方は、すべてがすべて新規入会であるとは限らないので、返信メールで、「過去に登録したことがあるか」を問い合わせています。過去に登録があれば、その番号を覚えてもらうことにより、JSAF事務局へコード確認と登録復活の依頼をしています。

(1) 「日本セーリング連盟・メンバー登録のご案内」と、「日本セーリング連盟・メンバー登録 手続きのご案内」の二種類の案内を添付ファイルで送信します。

(2) 手続き案内メール送信後、ほとんどの方が年会費を振り込まれますが、入金の確認ができない方には、「メールを読んでいないのでは」と見なし、添付ファイルと同じ内容のものをお送りします。

(3) 郵送後、なお、入金確認ができない場合、最終案内として「あなたのウェブからの入会申し込みを削除させていただきます」というメールを送ります。するとしばらくして、ほとんどの方が年会費を振り込んでこられます。

(1) から(3)の作業によって、ウェブからの入会申し込み者のほとんどが会員になっていただけのようになりませんでした。会員加入の斡旋はできませんので、申し込みをされた方たちすべてが会員になられるように努力しています。

更新処理をできるだけ簡略化する方法

毎年、継続案内をお送りし

ている時、「こちらが辞めると言わない限り会費を払いますから、それで更新してください」と言われたことがあります。

当時は、更新案内と登録用紙をお送りし、登録状況内容に訂正がなければ、会員番号と氏名のみを記入して返却してもらっただけで更新をしていましたが、先の指摘を受け、対応方法を下記のように再考してみました。

- ・返信方法を考える
 - ・メールだけで受け付ける
 - ・資格取得、更新の記入確認
 - ・〇印をつけるだけで更新する
 - ・クラブ・団体などまとめて一括更新ができないか
- などで簡単に更新できる方法を講じました。以下、個人と団体に分けて説明します。

個人申し込みの更新方法

■案内方法

JSAFホームページの「メンバー登録」「メンバー情報管理」画面をプリントアウトして、用紙下の余白に継続更新依頼の案内文をプリントして、本人に登録内容をチェックしてもらい、当年中に得た資格などがあれば記入してもらうことにしました。これによりご自身のステータスが確認でき、ちょっぴり自尊心も掻き立ててもらおうにしました。

■返信・更新登録

訂正項目がなければメールで名前と会員番号を、訂正項目があればその訂正内容を付け加えて連絡してください。更新ができるようになりました。

メールでの返信を受け付けるようになって、更新案内の送付後に継続希望者の連絡が早くなり、その返事に追われるようになってしまった一面もあります。一方で、相変わらず郵便やFAXでの連絡もあります。メールだけで事が済むわけではないことも考慮しておかなければならないと思っています。

団体、クラブ、学生への更新方法

■案内方法

まとめて更新手続きをしてくださるチームへは、今年中に受け付けをしたチーム全員の氏名、会員番号を一覧表にして更新案内と一緒に取りまとめ担当者へ送付します。

それまでは、一括更新のチームであっても個々に対応していたのですが、新しい方法でお互いに楽になり、早期更新ができるようになりました。

団体、クラブ、学生などのチームは、取りまとめ担当者が毎年、同じこととはありません。そこで、担当者が変わったときには、新規担当者への案内物の転送をお願いすると同時に、担当期間中のお礼の挨拶も同封することにより、新し



photo by Hamaya Sachie

い取りまとめ担当者と連絡がスムーズにとれるようになりました。

案内物には下記のものがあります。

□更新対象一覧表(継続登録卒業/退部、在学年に○印をつけてもらう用紙)

□更新手続き方法(ジュニア・ユース用、高校生用、大学生用、一般用)

□チーム名を入れた申し込み用紙

■返信II更新登録

□一覧表に記載されていて、登録情報に訂正がなければ該当欄に○印のみ

□ジュニアから高校生、高校生から大学生、大学生から一般のように、種別変更が発生する場合でも、訂正項目がなければ、現在持っている番号で更新を受けつけるようにしました。

□新規登録者へは、更新手続きに書いてあるように、JSAFのホームページから、同封してある申し込み用紙を使ってもできるように、新規、更新の申し込みを二元管理するように整えました。

以上のように、新規申し込み者へはできる限り早く連絡を取る。継続者へは、手間をかけないで更新申し込みできるように心がけています。

その結果が会員受け付け数の増加につながったとは断言できませんが、自分



Photo by Suzuki Noriyuki

逆の立場であつたら、今、どのようしてほしかを念頭に入れて作業を行なっています。

会費増強プロジェクトチーム
田中義明

Case.2

外洋ヨットレースを通じた

会員獲得

JSAFの会員数が昨今、減少の一途をたどり、理事会でも常に会員獲得や増強策などが求められます。言葉だけではどうしようもない現実があります。ヨット人口の減少、高齢化は歯止めがかり

ません。

JSAFへの加入を勧めると、「どんなメリットがあるか」とよく聞かれます。安全、レース、ルール、イベント開催などを一通り説明しますが、「クルージングだけを楽しむ我々にはあまり関係がない」とよく言われます。そのような方には「クルージングも楽しいのですが、艇の速い遅いは気にせず、レースに参加してみてください」とお願いしています。なぜならレースは自艇の帆走能力と自分の操作能力を評価できるからです。それが安全につながるからです。

NORC時代からずっとこの方針は貫いてきました。皆さんはヨットで遠くに行く夢を持ち続けていらつしやいます。レース派の方もクルージング派の方も。

外洋系の理事を拝命する前からも南九州だけでなく全国の会議や講習会に出かけ、それらの情報を会員だけでなく皆さんと共有することが安全につながり、JSAFを理解してもらう方法だと思っております。

セーリング界にはオリンピック、国体、全日本選手権など様々な大会があり、選手層も多岐にわたり、すべてのセーラーの面倒はJSAF本部だけでは見きれません。そのために加盟団体や特別加盟団

体があります。加人数でいえば大きな組織もありますし、我々のような弱小加盟団体もあります。

しかし、外洋安全委員会などには外洋艇には欠かせない情報がいっぱいあります。メリットは求めるものではなく、会員になって有効に利用することだと思えます。

また、加盟団体では、毎月いろんなイベントを実施しています。ヨットも多数集まります。それなのに、なぜ会員は増えないのでしょうか。

それは、非難するつもりは毛頭ありませんが、加盟団体の運用方法に原因があるのではと思います。その地方に合った魅力あるイベントにもついでにければ自然と会員は増えるはずですよ。

外洋東海では毎年、会員数が増加しています。我々南九州でも昨年から増加し始めました。要因の一つにミニトン全日

本開催があげられます。関東、関西で交互に開催されていたこのレースを昨年は鹿児島で開催しました。地方での全日本大会開催といったこともあり注目されました。加えて、ミニトンは20年から30年前のデザインです。しかし、金のかからないヨットレースとして高齢化するヨット界でも受け入れられました。

これを契機に近隣県からIRC取得に関する質問が寄せられたり、計測の予約があつたりと影響が出始めています。またレースには参加しないがセールナンバードだけはほしいという話もあり、さまざまに相乗効果が出ています。

4月は第12回台琉友好親善国際ヨットレースの運営の手伝いをしました。そこで特別加盟団体のあり方やJSAFとの関わり合い、会員数を増加するにはなど、いろいろ話し合うことができました。ここでは、まず安全を最優先に公平にレースやイベントを開催することが一番であることを話しました。それには情報が一番ほしいとも言われました。

地方の果てまでのサービス。それがJSAFの会員増加につながるのではと思



photo by Aoyama

羽石政次・外洋南九州理事



www.quantum-jpn.com
info@quantum-jpn.com



www.wattsmarine.jp

(株)セイルス・バイ・ワッツ・ジャパン
本社ロフト

〒238-0233 神奈川県三浦市向ヶ崎町 8-40
電話:046-882-5451 fax:046-882-4319
関西営業所(新西宮 YH)

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜 4-14-3
電話:0798-23-6410 fax:0798-23-6420

Full Speed Ahead

Carrying dreams, Carrying the future

子供たちの未来が輝かしいものであって欲しい。そのために私たちは運び続けます。
ヒトやモノを運ぶことが、夢を運ぶことにつながると信じて。船だからこそできること。
商船三井だからこそ、できることがあります。 www.mol.co.jp

MOL 商船三井

CATCH THE WIND

YAMAHA
SAILING CRUISER
&
DINGHY SERIES



●お問い合わせは.....
◎ディンギーヨット/ オクムラボート 販売株式会社 〒671-0111 兵庫県姫路市の形町の形2013 tel.0792-54-5630 <http://www.okumuraboat.co.jp>
◎クルザーヨット/ ニュージャパンヨット株式会社 〒421-0502 静岡県牧之原市白井7-9 tel.0548-54-0221 <http://www.njy.co.jp>

■第1レース：基隆市長杯基隆島一周レース

4月27日(土) 11:35 スタート(クラスA及びB)
 コース：北西方向の基隆島一周(8.5マイル)
 参加27艇(日本、香港、韓国、台湾、マレーシア、セントクリ
 ストファー・ネイビス)

◎レースの様相

微風でしかも追手の風 斜め前方に基隆島、背面は「九分」という基隆の有名な観光地で切り立った山の斜面に旧鉱山の跡があり、無数の観光施設がへばりついている。そこから吹き降ろすように風が吹き、少しコースが違えば、かなりの強風を受ける。各艇順調にスタートを切ったが、速い潮流が左から右へ流れ、基隆島への回り込みが難しい。少し前方を走っていた艇は2枚のジェネカーを破って、バウにセールを絡み付かせている。台湾艇の<At Ease>は地元の艇で、この複雑な海流、風を熟知し、ジェネカーを揚げて先頭を突っ走っている。

基隆島を回り込んだところで島影になり、最短を回ろうとした香港艇は風を捉えられず、速い潮に翻弄されている。微風の中をなんとか漕いで島を回りきると急にクロウズの強風が吹き、前の艇は45度近く傾いて、前から来る波も3mを超えているようだ。フィニッシュまでの3マイルは潮流と風が逆で、高波が立ち、ヘッドセールを縮帆せざるを得ないほどだった。基隆の陸の地形、海の地形そしてピラミッドのように海面から突き出た基隆島、この三者が複雑に絡み合って、とても不思議な海面を作り出し、たかだか8.5マイルのレースだが、クルーにとっても、スキッパーにとっても色んな学習が出来る海面だったと思う。5~6艇がリギンの破損などのトラブルでリタイアした。

■第2レース：日立CUP黒潮横断レース

4月28日(日) 10:35 スタート
 コース：基隆-石垣巻沖(136マイル)
 参加19艇(台湾、香港、日本)

◎レースの様相

スタートラインはほぼ昨日と同じで、潮流は昨日にもまして強い。風向はほぼ南東で石垣島へのコース方向である。スタート後、台湾沿岸を超える頃から風速が増し、艇は順調に平均7~8ノットで石垣へ向かう。クロウズでオンラインより北へコースがずれていたが、このまま距離を稼いだ方がいいと判断した。前方を走っている2艇はタックし、オンコース線上へ戻っている。

この時スターボード側に見えている艇は2艇で、後の大半の艇はポート側に視認。

1回目のロールコール時、コンパスコースと対地(GPS)コースの差が45度もあった。完全な蟹走りだ。石垣島北の尖閣諸島に向かっていく。

潮流が弱くなる海域までこのまま走り、潮流が弱くなった段階で、タックしてオンコース線上へ戻ると決めたが、一向に角度誤差が変わらない。2回目のロールコール(夜12時)で与那国北36マイル、オンコースラインより



クルージング派も多数参加する台琉友好親善国際ヨットレース

26マイルも北へずれてしまった。

これ以上離れられないので、タックし与那国方向へ向かったが、潮流は衰えない。船上で見る限り風速もよく、ボートスピードは7ノットを超えているが、対地速度は2.5~4ノット。愕然とするが、まずはオンコース線上に。緯度は変わっても経度はまったく変わらず、つまり石垣島方向へまったく進んでいない。

しかし、セーリング自体はとても気持ちがいい。適当な風、潮流と風向がほぼ同じなので海面はフラット、水温が高い黒潮なので夜光虫が帆走中のボートの周りで光を放ち、まるで銀河の中を突っ走っているように思え、フィニッシュラインへ進めないイライラを解消できた。

朝6時の3回目のロールコールはフィニッシュラインまで67マイル。蟹走りしているため実際の距離は時間4マイルほどしか縮まらない、石垣での交流会開始が午後6時であること、また入国審査のタイムリミットが午後8時であり、これに遅れると検査が翌日となり下船できなくなる。

この時点の計算で石垣着は午後10時から11時。午後4時のレースタイムリミットを大幅に超えるし、石垣港でのこのレースをアシストした関係者、先着している参加艇との交流会に遅れる訳にはいかないと判断し、リタイアを決心。

朝日を浴びながら全員で台湾ビールで乾杯し、労をねぎらい、機帆走で石垣港に午後5時半に着岸。まだ半数以上は到着していない。結果、今回のレースでフィニッシュできたのは3艇のみだった。他艇の話によると、4.5ノットを超える潮流のため北へ(尖閣諸島近くまで)流されたが、セーリング自体は楽しめたという。台湾艇と日本艇、香港艇が同じ海面を共有したことに満足し、このレースは終った。

■第3レース

1. NEC・OCN 名蔵湾ショートコースレース
 4月30日 10:30 AMスタート

コース：スタートライン-上ブイ 2周(4マイル)

参加11艇
 2. 石垣エスエスグループ 名蔵湾ショートコースレース
 4月30日 1:30 PMスタート
 コース：スタートライン-上ブイ 2周(4マイル)
 参加艇11艇

◎レースの様相

今回初めて行われた石垣島名蔵湾ショートコースは風上ブイ、アウターブイ、コミティポート間を2周するコースで行われた。海面は南風8m、コミティポートは大型観光カタマラン船を観覧艇としても使い、一般の観光客なども乗船し、レースを観覧した。4マイルのショートコースで石垣島の素晴らしいサンゴ礁の海面を気持ちよく帆走できた。第2レースリタイアのフラストレーションが一気に吹き飛んだレースだった。2回のレースは天候に恵まれ、八重山諸島を遠くに見ながらの観光セーリングにもなった。

■最後に

今回の3つのレースは海域、海象、地域が異なるバラエティに富んだレースだった。国や言葉、文化の違いを超え、海遊びの一体感の中で参加者が新たな友人を作ったことと思う。

12回を迎えたこのレースのリピーターは多く、参加者がストレスを感じない、友好関係の伝統を今後も継承していきたい。とくに安全面での充実好心地よいイベントにもつながると思う。

参加艇はレース派だけではなく、クルージングを主に活動する艇も半分以上を占めるようになり、お互いの刺激の中で、一つのルールの下に、国境を越え、向こう岸の宴会場を目指すレース。これが台琉友好親善レースの本質だと確信する。

(深見和壽/実行委員会事務局長兼(八重山号)船長)

JSAFオリジナル リサイクルトートバッグ

使用済みセールをリサイクルして制作したトートバッグ。ひとつひとつ、バッグの表情が違います。手に取ってデザインや質感を見ていただきたいとボートショーや国体会場でも販売していませんでしたが、会員のみならず広く知っていただくために、ご紹介いたします。

〈申し込み方法〉

JSAF事業開発委員会宛てにFAXで在庫の確認をした後、指定口座にお振り込みください。

- 必要事項 希望サイズ(大・小)、数量、住所、氏名、電話番号、メールアドレス
- 連絡先 TEL 03-3481-2357 FAX 03-3481-0414
- 振り込み先 みずほ銀行 渋谷支店 普通預金 1983966
 (公財)日本セーリング連盟 ※手数料はご負担下さい



大 ¥5,000
 小 ¥4,000

YANMAR
Solutioneering Together

世界の海を
知り尽くしたヤンマーが、
いま世界最高峰のレースへ。



©ORACLE TEAM USA / Photo: Guilain GRENIER

www.yanmar.co.jp

本社 / 大阪府北区鶴野町1-9 梅田ゲートタワー(〒530-8311) TELダイヤルイン(06)6376-6223 **ヤンマー株式会社**

病院部門

北柏リハビリ総合病院(217床)

健診センター

柏健診クリニック
汐留健診クリニック

クリニック部門

西浦眼科
まちや外科内科
梅郷整形外科クリニック(13床)

訪問看護ステーション

北柏訪問看護ステーション

在宅福祉事業部門

エンゼルサービス野田(訪問介護)
エンゼルサービス柏(介護ショップ・訪問介護)

介護老人保健施設部門

梅郷ナーシングセンター(124床)
北柏ナーシングケアセンター(120床)

介護老人福祉施設部門

みゆきの郷(120床)
流山こまぎ安心館(110床)

介護福祉部門

梅郷ナーシング居宅介護支援事業所
北柏リハビリ総合病院居宅介護支援事業所
居宅介護支援センターみゆき
居宅介護支援事業所 こまぎ安心館

研究部門

日本成人保健医療問題研究所



「感謝な心」で
信頼の医療サービスを
ご提供いたします

 **天宣会グループ**

〒277-0021 千葉県柏市中央町1-1 TEL 04-7167-6667(代表) www.tensenkai.or.jp



ミズノは2020年の東京招致活動を
応援しています。



うまいぞ、
長尾くん!

名前で
呼ばれ
ちゃった…。
(ドキドキ)



会えるのは、
室伏選手だけじゃない。

21競技、300名以上の有名アスリートが
講師に登録。ミズノのスポーツ振興イベント
「ミズノビクトリークリニック」。

キミも、有名選手に会えるかも! 「ミズノビクトリー
クリニック」は、オリンピックや世界大会など…
さまざまな舞台で活躍したミズノの契約選手や
社員選手を講師に招き、実技の指導や講習、サイン
会やトークショーなど行うイベントです。講師に登録
している選手は21競技300名以上。スポーツは
もっと好きになると、きっと、うまくなるよ。



スポーツの楽しさを伝え、広めています。

開催レポートはこちらから… **Victory Clinic** <http://www.mizuno.co.jp/victoryclinic/mizuno.jp> ☎0120-320-799

国際VHF無線用免許講習会

舵社主催
KAZI マリンスクール
海上特殊無線技士講習会を
10%割引で受講できます

**JSAFメンバー
限定割引**

専用申込書が必要です

お申し込みには、JSAF会員限定の専用申込書が必要です。専用申込書はJSAFホームページからダウンロードするか、KAZIマリンスクールまでお電話でご請求ください。

[お問い合わせ・申込用紙請求先]
JSAF外洋安全委員会ホームページ
jsaf-anzen.jp/1-7-2.html
KAZIマリンスクール
TEL 03-3434-0941

必ず
JSAFメンバー
専用申込書と
お伝え下さい。

お申し込みは、 ファックスで、 JSAFまで

お申し込みには、JSAF会員限定の専用申込書に必要事項をご記入いただき、JSAF外洋安全委員会までFAXにてお申し込み下さい。

[受講申込みFAX送付先]
JSAF外洋安全委員会
FAX 045-544-5813

お支払はカード、 現金書留、 お振込等で

JSAF外洋安全委員会にお申し込み後、KAZIマリンスクールより受付確認の連絡を入れさせていただきます。その際にお支払方法をご指定ください。各種クレジットカード、銀行振込、現金書留でのお支払がご利用いただけます。また、システムKAZI会員の方はシステムKAZI自動引き落としもご利用いただけます。

第2級海上特殊無線技士 軽減 コース

[受講料] 28,000円 ▶ **JSAF会員
限定価格 25,200円(税込)**
(免許申請料、教科書代含む)

第2級は国際VHF25WまでとDSCの運用が出来る資格です。軽減コースは第3級からのステップアップコースで、第3級海上特殊無線技士資格を持つ人のみ受講可能です。1日7時間の講習を受講し、終了試験に合格すると資格を取得できます。

第23回
東京
教室
2013.8.25 (日)
AM9:00-PM7:30

[会場] LMJ 東京研修センター 4F 大会議室
東京都文京区本郷 1-11-4 小倉ビル(東京ドーム近く)

[定員] 50名(定員になり次第閉め切らせていただきます)

第24回
大阪
教室
2013.9.8 (日)
AM9:00-PM7:30

[会場] 此花会館 402、403号
大阪市此花区西九条 5-4-24

[定員] 50名(定員になり次第閉め切らせていただきます)

第25回
名古屋
教室
2013.10.6 (日)
AM9:00-PM7:30

[会場] ゼミナールプラザ第7会議室
名古屋市中区正木 3-7-15

[定員] 50名(定員になり次第閉め切らせていただきます)

第3級海上特殊無線技士

[受講料] 23,000円 ▶ **JSAF会員
限定価格 20,700円(税込)**
(免許申請料、教科書代含む)

国際VHF、5Wまでの運用ができる資格です。1日6時間の講習を受講し、修了試験に合格すると資格を取得できます。どなたでも受講出来ます。

第37回
大阪
教室
2013.7.21 (日)
AM9:00-PM6:30

[会場] 此花会館 402、403号
大阪市此花区西九条 5-4-24

[定員] 50名(定員になり次第閉め切らせていただきます)

第38回
東京
教室
2013.11.17 (日)
AM9:00-PM6:30

[会場] LMJ 東京研修センター 2F 特大会議室
東京都文京区本郷 1-11-4 小倉ビル(東京ドーム近く)

[定員] 50名(定員になり次第閉め切らせていただきます)

- 最新の講習会日程については、KAZIホームページをご覧ください。
- KAZIマリンスクールまでお問い合わせください。
- 各回定員になり次第締切となります。
- 申込書をご送付いただいた場合でもお断りする場合があります。
- 受講料入金時をもって正式申込みとさせていただきます。
- 完全予約・定員締切制のため正式申込み後の日程変更および返金はできません。

受講申込みFAX送付先
JSAF外洋安全委員会

FAX 045-544-5813



関西ヨットクラブ



環境キャンペーン・協賛社

外洋キャンペーン・協賛社



平成25年度賛助会員



NO.101

5月24日～6月1日に行われた「2013 IFDSブラインドセーリング世界選手権」(相模湾、シーボニアヨットハーバーをベース)の1シーン。日本は国別対抗で3位を獲得し、B2、B3クラスでも3位に入った(写真/平井淳一 photo by Junichi Hirai)

■これまでJ-SAILINGはジュニア、ユースの会員には配布されていませんでした。しかし、関係者からは配布を希望する声がありました。そこで、将来のJSAFを支えるジュニア、ユースにJSAFを取り巻く様々な状況を的確に知らせるために、本号から高校ヨット部と全国のジュニアヨットクラブへJ-SAILINGを配布するよういたしました。各人に届くのではなく組織単位での配布になりますが、役立てていただければ幸いです。■本号では「JSAF教職員就職プロジェクト」を紹介しています。減少

傾向にある高校ヨット部ですが、ヨットに詳しい先生が増えればそれに歯止めをかけることができると考え、1人でも多くのヨット経験者を教職員として学校に送り込もうという作戦です。地道な方法ですが本質に迫る方法であるともJSAFは考えます。会員の皆様からも、底辺拡大、会員増強に関するアイデアをもっともっただければ幸いです。■本号から体裁が少し変わり、全24ページとなっています。ご了承ください。

(柳澤康信/広報委員会委員長)



J-SAILING No.101 平成25年6月25日発行 通巻455号 昭和42年12月25日第三種郵便物認可
 発行/公益財団法人日本セーリング連盟広報委員会 〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1
 電話 03-3481-2357 ファクス 03-3481-0414 E-MAIL head@jsaf.or.jp
 発行人/河野博文 編集人/柳澤康信 編集スタッフ/エディター・豊崎謙、フォトグラファー・平井淳一、デザイナー・加瀬倫有
 定価/300円(JSAF会員は会費に購読料が含まれています)
www.jsaf.or.jp



45rpm studio co., ltd.



JAPAN AIRLINES



新しい翼で、世界の空へ。



明日の空へ、日本の翼



昭和42年12月25日第三種郵便物認可 平成25年6月25日発行 通巻455号

J-SAILING

JAPAN SAILING FEDERATION

定価300円

NO.101